



日中韓 大観光 交流時代

— 摩擦を越えて —

2016年度 同済大学・立命館孔子学院合同セミナーシンポジウム

11/19 [SAT.]

13:00~17:00

12:30受付開始

入場無料・事前申込制

定員に達した場合は受付を締め切ります

お申込み・お問い合わせ:

立命館孔子学院

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学 アカデミア立命21 2階
TEL: 075-465-8426 FAX: 075-465-8429
E-MAIL: koza@st.ritsumeiji.ac.jp

主催: 同済大学、立命館孔子学院大阪学堂
協力: 大阪市、立命館大学
後援: 中国駐大阪総領事館教育室

おしよせる! インバウンド(訪日外国人観光客)
と大阪の元気

溝畑 宏 公益財団法人大阪観光局理事長

大観光時代における訪日中国人旅行客の行動

邱 燦華 同済大学経済・管理学院副教授

学び合い観光の時代—食を中心にして—

변정우(卞正雨) 慶熙大学ホテル観光学校教授

観光立国日本のインバウンド4000万人時代
と日中韓観光交流の“これから”

石崎 祥之 立命館大学経営学部教授



※講演は日本語または逐次通訳で行われます。

立命館大学大阪梅田キャンパス
多目的室・演習室2

〒530-0018
大阪市北区小松原町2-4
大阪富国生命ビル5階

JR 大阪駅 南口より徒歩5分
阪急 梅田駅 2階中央改札口より徒歩5分
阪神 梅田駅 東改札口より徒歩3分
地下鉄谷町線 東梅田駅 北東改札口より徒歩1分
地下鉄御堂筋線 梅田駅 南改札口より徒歩3分



2016年度 同済大学・立命館孔子学院合同セミナーシンポジウム 日中韓・大観光交流時代—摩擦を越えて—

日中韓3カ国におけるアウトバウンド、インバウンドの最近の動向について、各国の識者から現実と課題について解説していただきます。また、文化・習慣の違いから起こる摩擦（トラブル）を今後、どのように解消・対応していくか、また、今後の大阪をはじめ、関西経済に与える影響について、基調講演及びパネルディスカッションを通して、検討してゆきます。

基調講演・パネリスト

1 おしよせる！インバウンド（訪日外国人観光客）と 大阪の元気

日本語

大阪観光局は、「観光で大阪を元気に！」と様々な取組を展開しています。言うまでもなく「観光立国」の推進は、人口減少や少子高齢化の課題を抱える我が国が、力強い経済を立て直すための重要な成長戦略の“柱”です。その観光立国推進においてアジアは重要なマーケットであり、急増する外国人観光客の大阪経済に及ぼす影響は計り知れません。

昨年、2015年度の外国人観光客数は1974万名を数えました。今年は2000万名を超えることが確実です。そのなかで、外国人観光客の半数近くを占める中国と韓国の観光客の“目線”と“行動”が大阪に注がれています。今、大阪は「日中韓・大観光交流時代」の一大ステージになっています。大阪の数えきれない観光資源、食観光、スポーツ観光をはじめ大阪の魅力発信と観光政策について論じます。



溝畑 宏

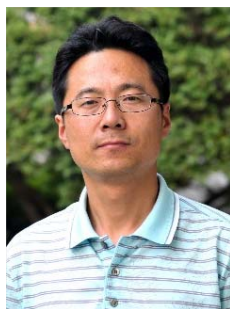
Hiroshi MIZOHATA

公益財団法人大阪観光局
理事長（観光局長）
1985自治省入省
1990大分県庁へ、「一村一品」の平松知事と立命館アジア太平洋大学を誘致。（同大学に日本初の孔子学院が設立された）
2005大分トリニータ社長
2010観光庁長官等を歴任

2 大観光時代における訪日中国人旅行客の行動

逐次通訳

訪日中国人観光客の消費行動について、その満足度、消費活動、レジャー活動及び、スポーツ観光活動の四つの項目を中心に、中国人旅行客の特徴・行動の研究を踏まえ、経営においての見解、及び経営戦略をお話します。



邱 燦華

QIU Canhua

同済大学
経済・管理学院 副教授
専門：サービスサプライチェーン管理、ゴルフクラブ管理、レジャー産業政策および管理運営、レジャー地区計画など

3 学び合い観光の時代—食を中心に—

逐次通訳

現在、多くの国がマーケットとしての観光分野の重要性を認識し、外国人観光客の誘致に力を入れている。その中で、食観光は世界的な観光市場の中でも、最も急成長している分野である。各国ごとに独自の食文化を持っており、最も差別化が可能な観光資源であることが影響しているのであろう。このような傾向は今後も続くと思われる。また、インターネットの発達により様々な情報収集が可能になり、食文化はその国を知るための重要な役割を担っているともいえる。そこで今回は、韓国人観光客がどのような日本の食、食文化に対して関心を持っているのか、また、韓国人観光客の好みの変化などから韓国の食文化がどのように変わっていったのか、などを紹介し、今後の韓国と日本、お互いの国の食文化を中心とした発展に関する意見を述べようと思う。



변정우 (卞正雨)

Byun Jeoung-woo

慶熙大学
ホテル観光学校 教授
専門：ITをベースにした関連産業の融合・複合等、ホテルや観光産業の拡散

4 観光立国日本のインバウンド4000万人時代と 日中韓観光交流の“これから”

日本語

大インバウンド時代におけるアジア観光の持続的発展のために、今回、次の3つの点について考えてみる。まず第一に、日本におけるインバウンド時代の現状把握として、その代表とも言える「爆買い」を軸に、変遷及び今後を考えるとともに、大阪という観光地の将来性、即ち、新たな観光資源の可能性について考える。第二に、日本が対応すべき多様なアジアのニーズへの取り組みとして、特に、中国と韓国が日本に期待するものについて考える。第三に、観光の新たな切り口としての“体験”を提案する。体験という五感に訴える観光を軸に、新たな観光資源を発掘して行く。



石崎 祥之

Yoshiyuki ISHIZAKI

立命館大学
経営学部 教授
専門：観光マーケティング論、観光システム論、レジャー産業論

シンポジウムファシリテーター



小畑 力人

Rikito OBATA

追手門学院大学社会学部教授
日本観光ホスピタリティ教育学会会長

略歴：

関西文理学院（予備校）進学指導部長から立命館大学入試部長（10万名入試）等を経て、和歌山大学副学長。国立大学初の観光学部を設置。現在、追手門学院大学社会学部長。

お申込方法

- ①HPからのお申し込み
当学院HP内「文化イベント講座受講申込フォーム」よりお申込ください。
<http://www.ritsumeit.ac.jp/confucius/>
- ②お電話でのお申し込み TEL: 075-465-8426

お問合せ・お申込先

立命館孔子学院事務局 国際平和ミュージアム2階
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学 アカデメイア立命21
TEL: 075-465-8426 FAX: 075-465-8429
E-MAIL: koza@st.ritsumeit.ac.jp

